



英語研修の学生スタンフォード大学構内にて



遠隔授業を聞く学生たち



九大感謝の夕べで記念撮影をする右から梶山前総長、吉田福岡市長、長嶺総領事、Robert Huang氏、井手JUNBA会長、松尾CAオフィス所長

# カリフォルニア(CA)オフィス 活動報告

CAオフィス所長  
松尾 正人

皆さん、しばらくぶりです。前にCAオフィスのことを広報誌に書いたのは二〇〇七年三月号でした。あれから丸二年、CAオフィスも大きく変わりましたので以下に報告します。

一番変わったのは二〇〇八年一月に本格的なオフィスをサンノゼ市に開設したことです。それまでは私の自宅にオフィスを置いていましたが、CAオフィスの活動が活発化したことが認められてオフィス開設の許可が出ました。それと同時に事務職員の駐在が決まり、第一期として梶原事務員が赴任してきました。この新スタートの機会にこれまでお世話になった講師やシリコンバレーの皆さんへの感謝を込めて「九州大学感謝の夕べ」を開催しましたが、日本から吉田福岡市長、梶山前総長、柳原国際担当理事(当時)などが参加され、合計二〇人からなるゲストの方を招待して賑やかな夕べとなりました。

CAオフィスの二〇〇八年度の活動は以下の三つに集約されます。

## 1 二回の遠隔授業

二〇〇八年度は前期に「九大生よ、ビジネスを学ぼう」と後期に「九大生よ、リーダーになろう」の二回の授業を遠隔で行いました。

ビジネスの講義は、前半は中野克彦講師(元日本ゼオン社長)に会社での生き方について、後半はベンチャーキャピタリストや実際に会社を興した経験者から会社を興すとはどういうことかについて話していただき、約五十人が熱心に受講しました。後期のリーダーシップ講義は、在サンフランシスコ日本国総領事をはじめとするシリコンバレーのリーダーの皆さんに交代で、それぞれの方が考えるリーダーの在り方についてお話しいただきました。

参考までに、二〇〇九年度前期は、再度ビジネス講義を開始しました。今回は横浜市立大への配信を始めることとし、第一回目の授業は合計で一〇〇人を超す参加者があり好調なスタートを切っています。

ます。

## 2 モントレーでの英語研修

二〇〇七年に続いて二〇〇八年も全員ホームステイで四週間の英語研修を実施しました。今回は二十七人の参加があり、前年の九人から大きく進歩しました。研修はサンノゼから南に車で一時間半のモントレイ市にあるモントレイ国際学習研究所(Monterey Institute of International Studies)にて行いました。今回は医学部から十二人の参加があり、特に医学用語を使うプログラムも入って、多少専門的な部分も作りしました。米国同窓会基金を利用したフィールドトリップでは、スタンフォード大学でノーベル賞受賞者のポール・バーグ博士の講演、ゲルゲルで社内見学と昼食、STEMセル研究で有名な山中博士がポストドクをしていて、今でも研究室があるGladstone Instituteの訪問ではお弟子さんから研究の内容につきお話しを伺いました。二十七名全員無事にそれぞれの思い出と成果を持って帰ることができたようです。

今年、サンノゼ州立大に場所を移して、八月二十四日から四週間のホームステイによる英語研修を行います。ポストドクなどの研究者を対象にした技術英語研修も企画中です。詳しくは国際部にお尋ねください。

## 3 第四回QREPの実施

毎年三月に行われる研修会はQREPといわれ、シリコンバレーにて一週間の研修を行うものです。これについては次頁に詳しく報告していきますので、ここでは省略します。

二〇〇九年度も色々工夫して九大の学生の国際化への支援を行いたいと思っています。新しいオフィスは、サンノゼの五番街とよばれるSantana Rowという美しい通りのすぐそばにあります。当地にお越しの際はぜひお立ち寄りください。お待ちしております。



CAオフィスのすぐ隣には美しいショッピング街サンタナ・ロウがある



スタンフォード大学西教授の講義



インキュベーターPlug & Playを訪問写真



藤村道男氏の講義を聞く学生たち

# 「第四回二〇〇八年度QREPが成功裏に完了しました。」

## 九大が誇るシリコンバレーでの教育プログラム

### 「QREP (ロバート・ファンノアントレプレナーシッププログラム)」について

知的財産本部副本部長

谷川 徹

カリフォルニアオフィス所長

松尾 正人

知的財産本部とカリフォルニア・オフィスが協力して、毎年三月に行っている起業家精神高揚プログラムは、今年第四回目を迎え、多くの思い出を残して成功裏に終了しました。このプログラムは起業家精神やハイテクビジネスの世界的な中心地であるシリコンバレーの地にて、チャンネルジ精神や国際的感覚の養成などを目的とする一週間の教育プログラムで、通称「QREP (キューレップ)」と呼ばれています。

QREPは、九州大学を卒業し米国で大成をおさめたロバート・ファン氏（一九六八年工学部電子工学修士卒、現Synex Corporation社長）の寄付金を核とし、米国内の同窓生からの寄付金を加えた基金を活用し開始されました。プログラムは、シリコンバレーで活躍する起業家、ビジネスマン、地域のリーダーなどによる多彩な講義やシリコンバレー特有の企業や

研究所等の訪問とそこで働く人との交流、そしてスタンフォード大学での米国学生とのディスカッションなど、ユニークかつ充実したカリキュラム構成で実施しています。

シリコンバレーにオフィスを構えている日本の大学は現在六大学ありますが、本学の持つ独自のコネクションを生かして構成しているこのプログラムは多くの注目を集め、過去四回の参加学生の数は総数一〇〇人を超えました。本年のQREPは三月一日から七日の間で行われました。今回は九大生二十一人に加え、第二回から参加の早稲田大学学生も五人参加し、恒例となつている米国内同窓会主催歓迎レセプションでは早稲田と九大の同窓生との交流を通じ、日本と違うビジネス環境や考え方に触れました。

今回は、英語による講義も四回あり、数人の留学生によるパネル

ディスカッション、当地の米国企業で働くエンジニアやバイオ研究者との議論会では、比較的同世代の人々からさらに深く踏み込んだ話をしてもらいました。また、フィールドトリップではSynnex社、IBM研究所、グーグルなどを訪問してそれぞれの企業の活動についての話を伺いました。

学生達が一番苦労したのはスタンフォードの学生との議論会です。グループに別れ、日本からアメリカに持って来たいビジネスを三種類提案しました。それに対してスタンフォードの学生から活発な意見・質問や改良アイデアの提案があり、言葉の問題もあつて戸惑う場面もありましたが、それなりに苦労して無事に結論を導くことが出来ました。最終日の夜はお別れレセプションが開かれ、講師やゲストの前で学生たちの一人一人が感想を発表しました。これまでも毎年参加者に大きな感動を与えて

きましたが、今年もそれぞれの学生の決意発表は印象深いものでした。主催者側としては、学生たちがこのプログラムに参加して、シリコンバレーで活躍する様々な人々の活動や生き方に直接触れることにより、自立した社会人として積極的に新しい物事に取り組んでいく姿勢や、自分が持っている個性を最大限に生かしながら社会で活躍していく方策を学びつつも、その後の人生を生き抜く新たな価値観を形成してもらいたいと念じています。幸いこれまでの四回のQREPは明らかに狙った効果を与えてきたことを実感として感じています。QREPは今後も継続してゆく予定ですので多くの学生の参加をお待ちしています。

今年もその決意発表は印象深いものでした。主催者側としては、学生たちがこのプログラムに参加して、シリコンバレーで活躍する様々な人々の活動や生き方に直接触れることにより、自立した社会人として積極的に新しい物事に取り組んでいく姿勢や、自分が持っている個性を最大限に生かしながら社会で活躍していく方策を学びつつも、その後の人生を生き抜く新たな価値観を形成してもらいたいと念じています。幸いこれまでの四回のQREPは明らかに狙った効果を与えてきたことを実感として感じています。QREPは今後も継続してゆく予定ですので多くの学生の参加をお待ちしています。